

新下水道技術五箇年計画策定に関する調査研究

全体期間

1999.10～2000.3

(目的)

我々を取り巻く社会環境は大きな変革期を迎え、下水道整備についてもこれからの変化に対応したより一層効果的且つ国民のニーズに適合した整備が求められている。また、これまでの地域的な環境保全から、地球規模の環境保全まで様々な対応が求められるようになってきた。新下水道技術五箇年計画は、このような下水道を取りまく状況の変化をふまえ、21世紀を迎えて取り組むべき主要な課題を設定し、これらの主要課題を実現するための技術開発項目を定めるとともに、長期的目標を視野に置きつつ五箇年間という比較的短期間における具体的な研究開発の目標を示したものである。

今回の改定にあたっては、平成10年6月より幹事会およびワーキング部会を開催し、改定内容の検討が行われた。平成11年7月からは学識経験者等による「下水道技術五箇年計画改定検討委員会」を開催し、その内容について審議が行われた。また、この間、技術開発に携わる各機関や下水道関係者へのアンケート調査や意見調査を行いとりまとめたものである。

(結果)

(1) 「新下水道技術五箇年計画」の構成を次のようにまとめ、その成果の概要を示す。

1) 策定の背景

下水道技術のこれまでの歩みと前下水道技術五箇年計画において開発された主要技術について、果たしている役割・効果等を総括的にレビューし、21世紀を目前に控え今後取り組むべき技術開発項目を展望し整理した。

2) 基本的な考え方

住民および社会の下水道に対する要望を踏まえて、これからの下水道技術開発の方向性を明らかにするため、①良好な水環境の創出、②安全・安心で快適なまちづくり、③省エネルギー・リサイクル型社会の形成、④効率的な事業推進、⑤アカウントビリティの向上の5つを主要課題とし、これらの課題を解決するために、技術開発項目の設定を行った。

3) 技術開発項目の実施計画

前章で選定した課題毎に①技術開発の必要性、②達成すべき技術開発目標と達成に必要な技術開発の内容、③技術開発の実施体制を取りまとめ、国、地方公共団体、民間、大学等の組織が効率的に実施できる分野を中心に概ねの分担を設定し、事前および事後における学識経験者等による評価の実施を提案した。

4) 技術開発の推進方策

下水道技術の開発と導入については、国のマネジメント機能の強化と各組織が得意とする分野を中心に役割分担し連携を強化して推進することが重要であるとした。

(2) 本計画の周知徹底を図るため、東京および大阪において公共団体、民間等を対象に説明会を開催した。

建設省都市局からの受託研究

研究担当者：石田 貴，間瀬 毅

キーワード

省エネルギー，リサイクル，アカウントビリティ